

# 地域連携事業報告書

RIC PROJECT

2023年度



地域リサーチ & イノベーションセンター



芸術文化観光専門職大学  
Professional College of Arts and Tourism



## 目次

### RICプロジェクト（地域連携事業）

No.	相手方	事業名	頁
1	但馬全域	高校コミュニケーションワークショップ事業	1
2	豊岡市	豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業	2
3	豊岡市	出石歴史資料館等（6 館）の利活用に向けた提言事業	3
4	豊岡市	豊岡市多文化共生推進事業：母語・継承語支援の調査研究と実践 ～外国にルーツを持つ子どもの支援	4
5	豊岡市	豊岡市中学校教育研究会等支援事業	5
6	豊岡市	小規模特認校 八代小学校活性化事業	6
7	豊岡市	豊岡市ジュニアプレカレッジ事業	7
8	養父市	養父市職員研修実施事業	8
9	養父市	養父市子ども向け職業体験事業	9
10	養父市	養父市明延地区活性化事業	10
11	養父市	養父市観光インバウンドにおける課題調査事業	11
12	朝来市	朝来市観光コンテンツ開発事業	12
13	朝来市	あさご芸術の森美術館風と光のページェント支援事業	13
14	朝来市	あさご芸術の森美術館アートマーケット支援事業	14
15	朝来市	KOUBA 地域ネットワーク形成支援事業	15
16	香美町	香美町産米ブランディング戦略構築事業	16
17	新温泉町	諸寄地区における観光産業活性化事業	18
18	新温泉町	夢ホール運営等研修及び人材育成事業	19
19	但馬広域行政事務組合	但馬管内の市町職員に対する研修事業（政策づくり研修 - 基礎編 - ）	20
20	但馬観光協議会	「大阪・関西万博」に向けた但馬観光 PR 動画制作支援事業	21
21	但馬県民局	起業スタートアップ支援事業	22
22	明石市民会館	明石市民会館演劇ワークショップ実施事業	23
23	ひょうご観光本部	兵庫県の高校生向け 観光・まちづくりセミナー開催事業	24
24	豊岡商工会議所	豊岡商工会議所リカレント研修実施事業	25
25	豊岡市商工会	神鍋エリア観光の機能強化及び J R 江原駅周辺の滞在コンテンツのブラッシュアップ事業	26
26	香美町商工会	新商品開発に係る需要動向調査実施事業	27
27	淡路市商工会	道の駅 " 東浦ターミナルパーク " 活性化事業に係る調査等事業	28
28	全但バス（株）	但馬ドーム開館 25 周年記念事業イベント	29
29	但馬空港ターミナル（株）	但馬空港チャーター便お出迎え事業	29
30	神戸学院大附属高校	コミュニケーション WS 及び豊岡演劇祭取組研修事業	30
31	但馬銀行	但馬地域における事業承継に関する共同事業	31

32	(株) トキワ	(株) トキワにおける新たな CSR 活動の検討支援事業	32
33	(公財) 太平洋人材交流センター 日本航空 (株) (株) トキワ	平田オリザ 研修協力事業	34

#### CAT 地域貢献事業

No.	実施主体	事業名	頁
1	CAT エクステンションセンター	リカレント講座「但馬ストーク・アカデミー」	35
2	CAT エクステンションセンター	生涯学習講座「CAT 市民公開講座」	36
3	学術情報センター	シリーズ「パフォーミング・ライブラリー」	37
4	実習支援センター	CAT 舞台芸術実習公演《Performing Arts Project (PAP)》 《TAJIMA YOUTH THEATER (TYT)》	38

#### その他の連携事業

No.	相手方	事業名	頁
1	甲子園大学、阪急阪神 HD、阪急 阪神百貨店、ホテル若水、宝塚市	1 万人の宝塚 Hands-温（ハンズオン）（宝塚大会議）	39
2	兵庫県鞆工業組合、(株) 由利	地域との連携による大学ノベルティ「リデュースバッグ」製作	39

- ・行政・団体・企業等との連携協定 .....39
- ・地域リサーチ&イノベーションセンターについて .....41

## ◆テーマ RICプロジェクト「高校コミュニケーションワークショップ事業」

TAJIMA

### ◆メンバー

(本学教員)

☆石井 路子、☆杉山 至、☆田上 豊、☆平田 知之、☆山内 健司、☆姚 瑶

(非常勤講師)

井上 三奈子、酒井 美佳、☆高橋 智子、☆福田 倫子、☆村井 まどか、森岡 望、☆山口 恵子

(50 音順、☆は主講師)

◆キーワード コミュニケーション教育 演劇的手法 但馬 3 市 2 町 高校

### ◆概要

但馬の高校生が持っている潜在的コミュニケーション能力を引き出すため、演劇的手法を用いてプログラムを展開。具体的には「自己効力感（自分の表現が受容され、何かを変えることができる経験）を増やす」「自己検閲（自分の表現が受け入れられないのなら黙っていようという意識）を減らす」ということを目的とした。本事業では参加者は互いの違いを尊重しながら、チームで意見をすり合わせて、正解のない想定外の課題を創造的に解決する力を養う。



### ◆事業内容（プログラムの流れ）

1. アイスブレイク（導入）→安心して発言・活動できる場づくり、参加者の特性の把握
2. メインコンテンツ（展開）→正解のない想定外の課題への取り組み、小集団でのディスカッション
3. リフレクション（振り返り）→発表・全体共有、結果ではなく過程を省察

### ◆事業成果

但馬 3 市 2 町の公私立高等学校・高等専修学校・特別支援学校 18 校において実施することにより、但馬地域のどの高校に進学してもコミュニケーション教育を受けられる環境が整っており、エリアとしてのシームレスなコミュニケーション能力向上に貢献した。

◆テーマ RICプロジェクト「豊岡市コミュニティ・ツーリズム推進事業」

TOYOOKA

◆研究者 准教授 高橋 伸佳

◆キーワード ヘルスケア、スポーツ、アウトドア、新しいライフスタイル、With コロナ・After コロナ

◆概要

コロナ禍で生まれた価値観（健康志向、環境への配慮、自然志向）に対応した、リピーター、周遊・回遊、滞在につながる新たな大交流の仕組み・観光プログラムを開発する。また、新規市場開拓のため、観光資源のコンテキスト転換を図り、拡大期にあるアウトドア、健康市場からの需要を取り込む施策に寄与するものとし、2022 年度に立ち上げた「ネオカル TOYOOKA」ブランドの確立を行う。

◆事業内容

1. 新規プログラムの開発及びプログラムの質の向上  
(1) 事業者の新規参入やプログラム造成を目的とした事業者向けセミナー
2. 既存プログラムの販売促進支援  
(1) 市民のプログラム参加を促す仕組みの検討  
(2) 芸術文化観光専門職大学の学生によるネオカル TOYOOKA プログラムのプロモーション  
(3) 販売サイト内での体験レポート動画等をアップするためのシステム構築と運用  
(4) 「ネオカル TOYOOKA サイト」のデザイン及びテキストの更新  
(5) 「ネオカル TOYOOKA サイト」への訪問を促す導線の改善と PR 広告の実施

◆成果

1. ネオカル TOYOOKA の新規事業者の参入の実現  
(新規登録プログラム：3 事業者 8 プログラム、相談対応：8 事業者)
2. 市民のプログラム参加を促す仕組みの実現（検証対象：豊岡市ファンミーティング）：図 2
3. 学生によるプロモーションの仕組みの構築（Instagram）：図 3
4. 「ネオカル TOYOOKA サイト」のパフォーマンス向上：図 4  
(2022 年度：立上げ→2023 年度：PV 数 6,940、UU 数 4,752) ※2024.2.21 現在



図 1 事業者向けセミナー



図 2 市民のプログラム

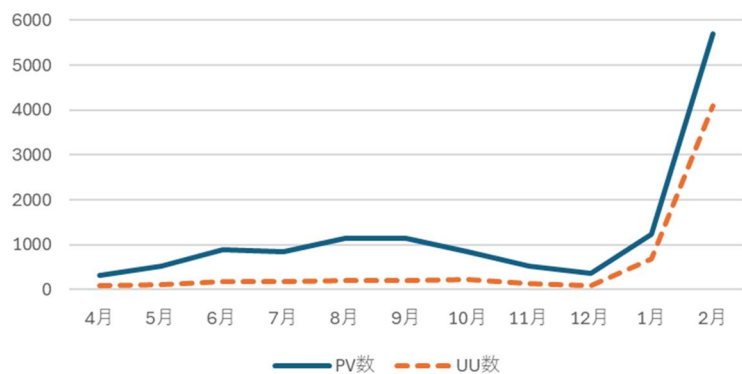


図3(左下) ネオカル TOYOOKA の Instagram

図4(右下) ネオカル TOYOOKA サイト PV 数・UU 数の推移

◆テーマ RICプロジェクト「出石歴史資料館等（6 館）の利活用にむけた提言事業」

◆研究者 准教授 藤本 悠

◆キーワード 地域活性化、指定管理施設、観光誘致、地域資源、文化財

◆概要

本プロジェクトでは出石歴史資料館等（史料館、明治館、家老屋敷、加藤弘之生家、永楽館、武家長屋史料館）の活用促進に関する調査を行った。調査の結果、当該施設 6 館の活用促進に向けては、1.出石全体に関わる課題、2.個々の施設の個別の課題、3.指定管理者制度に関わる課題、の 3 つに大別できることを明らかにし、これらの問題を踏まえた上で当該施設の利活用にむけての提言を行った。

◆事業内容

実施日	事業内容	場所
5 月 31 日	現状視察	旧城下町
6 月 23 日	先行調査に関わった研究者らとの研究交流会（1）	専門職大学
6 月 30 日	先行調査に関わった研究者らとの研究交流会（2）	専門職大学
7 月 13 日	指定管理者への聞き取り調査（1）	いずし観光センター
8 月 25 日	指定管理者への聞き取り調査（2）	史料館
10 月 22 日	学生との現地調査	旧城下町
11 月 30 日	地元住民および地域おこし協力隊への聞き取り調査	出石振興局
2 月 8 日	指定管理者および豊岡市との意見交換会	出石振興局

◆成果

1. 出石における観光客の消費行動から、リピーター対応の必要性が喫緊の課題であることを明らかにした。
2. 指定管理の設置目的が現状に合っておらず、設置目的を見直す必要があることを明らかにするとともに、指定管理者と行政の双方の責任を明確にした。
3. 指定管理者や地域住民からの聞き取り調査の結果、当該施設の全てに収益性を求める必要はなく、それぞれの施設の特性を活かした活用の方向性を明らかにした。



図 1. 学生らと一緒にいった現地調査の様子

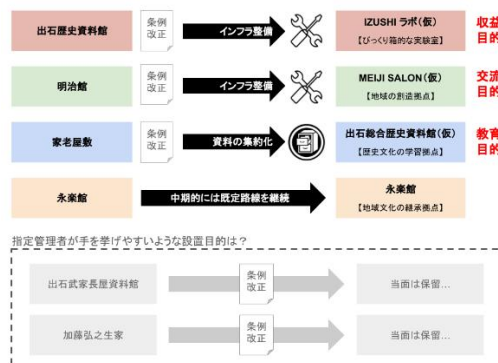


図 2. 当該施設 6 館の中期的な利活用促進案

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市多文化共生推進事業：母語・継承語支援の調査研究  
と実践～外国にルーツを持つ子どもの支援」**

TOYOOKA

◆研究者 講師 姚 瑤

◆キーワード 多文化共生、母語継承語、アイデンティティ、外国にルーツを持つ子ども

◆概要

近年、豊岡市の外国人市民(外国人住民及び外国にルーツを持つ人)は増加傾向にある。「多様性を受け入れ、支え合うバカルなまちづくり」を推進するため、外国にルーツを持つ子どもを対象に母語・継承語(親の母語)、母文化を学ぶ機会を提供し、自己のアイデンティティの確立を促すとともに、お互いの文化や生活習慣の違いを尊重できる人材を育成する。

◆事業内容

1. 教育機関における外国にルーツを持つ子どもの実態調査  
(認定こども園・保育園・幼稚園、小学校、中学校)
2. 中国・ベトナム・フィリピンにルーツを持つ子ども及び外国人親を対象に、  
ワークショップと料理教室を実施

◆成果

- ① 教育機関における外国にルーツを持つ子どもの実態調査
- ②「親子で学ぶ外国語・外国文化ワークショップ」講座(合計10回)

事業実施

- ・「親子で学ぶ外国語・外国文化ワークショップ」ワークショップ&料理教室

参加者数 218 人



写真1 中国語でカルタ



写真2 ベトナムの童謡を学ぶ



写真3 フィリピンのゴム遊び



写真4 ベトナムの通貨を学ぶ



写真5 ベトナム料理教室の様子



写真6 中国の地理を学ぶ

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡市中学校教育研究会等支援事業」**

TOYOOKA

◆研究者 講師 平田 知之

◆キーワード 小中高大連携、コミュニケーション

◆概要

授業を核にした研究を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、教員の授業力の向上に資するとともに、豊岡市中学校教育の推進に寄与する。

◆事業内容

◎公開授業支援

公開授業は但東中学校の1学年・3学年で行うが、事前に出石中学校（3学年）、豊岡南中学校（1学年）で、公開授業担当の教員が同内容の授業を行った。これらの授業を参観して、公開授業の目当てや教材解釈、指導案や授業で用いるワークシートについて検討を行う支援を行った。

①9/27(水)出石中・公開授業担当教員支援

会場：豊岡市立出石中学校、時間：13:00～16:00、実施内容：授業参観、学習指導案検討

②10/4(水)出石中・公開授業担当教員支援

会場：豊岡市立出石中学校、時間：13:00～16:00、実施内容学習指導案検討

③-1 10/11(水)豊岡南中・公開授業担当教員支援

会場：豊岡南中学校、時間：9:30～12:30、実施内容：授業参観、学習指導案検討

③-2 10/12(木)豊岡南中・公開授業担当教員支援

会場：豊岡南中学校、時間：14:15～18:00、実施内容：授業参観、学習指導案と、授業で使用するワークシートの検討

11/1(水)令和5年度 但馬中学校国語教育研究大会

研究主題「豊かな人間性を培う国語教育～主体的・対話的で深い学びを支える授業の工夫・創造～」

会場：豊岡市立但東中学校、時間：13:15～16:00

業務内容：公開授業参観（授業者：2名）、事後検討会（参加者全員）

記念公演（講演者：平田知之）

学習指導案検討の様子



但馬中学校国語教育研究大会 記念公演の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「小規模特認校 八代小学校活性化事業」**

TOYOOKA

◆研究者 助教 小島 寛大、助教 田上 豊

◆キーワード 小規模特認校、演劇ワークショップ、プログラム評価、小学＋大学連携プログラム

◆概要

令和6年度から小規模特認校制度が導入される豊岡市立八代小学校へ、芸術文化観光専門職大学の教員と大学生が出向く10回の出前授業。コミュニケーション能力向上のための演劇ワークショップを展開しながら、最終的に全校生徒が出演する朗読劇を発表する。演劇ワークショップと並行して、実施プログラムの評価も継続的に行い、活動のアーカイブを残すことを目指す。

◆事業内容

1. 約半年（10月～2月）で10回の演劇ワークショップを展開（1回45分）
2. 授業内にて八代小学校のリサーチ。その素材をもとに朗読劇のシナリオを執筆
3. 授業の最終回「ありがとうの会」にて朗読劇の発表
4. 授業後の児童へのアンケートを各回実施。複数回、教職員との授業後の振り返りを実施
5. 事業終了後、数名の児童代表、保護者や八代小学校の教員に向けて、グループインタビューを実施

◆成果

- ①演劇の創作事業を通して、表現における新たな全校活動の成功体験を提供
- ②小学校の教員へのコミュニケーション教育の視座の提供
- ③多角的なアンケートの収集によって本事業のアーカイブを作成

演劇 WS の実施内容

期間：2023年10月13日～2024年2月17日〈全10回〉※1回＝45分 会場：豊岡市立八代小学校 体育館、交流室		
前半： コミュニケーションWSと 朗読劇へのリサーチ	① 10月13日（金）	コミュニケーションWS①
	② 10月20日（金）	コミュニケーションWS②
	③ 11月7日（金）	セリフ作りを楽しもうWS
	④ 12月1日（金）	「八代小学校のいいところ教えて」WS①
	⑤ 12月8日（金）	「八代小学校のいいところ教えて」WS②
後半： 朗読劇の創作	⑥ 1月19日（金）	朗読劇・創作① 読み合わせ
	⑦ 2月2日（金）	朗読劇・創作② 演出を受けてみる
	⑧ 2月9日（金）	朗読劇・創作③ みんなで工夫してみる
	⑨ 2月16日（金）	最終リハーサル
	⑩ 2月17日（土）	発表（八代小学校「感謝する会」にて）

◆テーマ RIC プロジェクト「豊岡市ジュニアプレカレッジ事業」

TOYOOKA

◆研究者 教授 山中 俊之、准教授 小畑 克典、准教授 池田 千恵子、  
講師 石井 路子、講師 平田 知之、講師 野津 直樹、助教 田上 豊

◆キーワード 小中高大連携、コミュニケーション

◆概要

豊岡市内の中学生が、高等教育機関である大学というものを知る機会を創出し、知的好奇心を高めることで、主体的な進路選択に対する動機付けにつなげるため模擬講義及び施設・授業見学を実施した。また、特別支援学校中学部生徒が、それぞれの特性に応じた自己の潜在的コミュニケーション能力を引き出し、人間関係形成能力を育むため、コミュニケーションワークショップを実施した。

市立中学3年生及び特別支援学校中学部、11校：703名を対象に実施。

◆事業内容

(1) 日程

月日	時間	中学校名	担当教員
10月13日(金)	10時00分～15時00分	日高東中学校	石井講師、野津講師
10月20日(金)	10時00分～11時20分	豊岡南中学校	石井講師
11月8日(水)	10時00分～11時20分	港中学校、城崎中学校 日高西中学校	山中教授
11月15日(水)	10時00分～11時20分	出石中学校	池田准教授
11月17日(金)	10時00分～11時50分	豊岡北中学校	小畑准教授
11月24日(金)	13時40分～15時00分	竹野中学校、但東中学校	山中教授
11月21日(火)	10時00分～12時00分	出石特別支援学校中等部	平田講師、田上助教
1月16日(火)	9時30分～11時00分	豊岡視聴覚特別支援学校 中等部	平田講師、田上助教

(2) 模擬講義 (約30分)

- ・コミュニケーション、観光地理、観光情報、金融、グローバル人材など各教員の専門分野の紹介
- ・芸術文化観光専門職大学の紹介

(3) 施設・授業見学 (約30分) 約20名/班で学内見学(主に学生SAが学内を案内)

(4) コミュニケーションワークショップ(約1時間) 講師：田上豊 平田知之、

- ・演劇的手法を使ったコミュニケーションワークショップを実施



図1 模擬講義の様子



図2 コミュニケーションワークショップの様子

## ◆テーマ RICプロジェクト「養父市職員研修実施事業」

◆研究者 教授 山中 俊之、助教 田上 豊

◆キーワード 職員研修 市民協働 コミュニケーション

## ◆概要

①世の中でのグローバル化が進み、いかなる業務でも「対話力」の向上が急務となっている。若手職員を中心に演劇的手法を用いたコミュニケーション研修を実施することで、「主体性」「多様性」「協働性」を身に付け日々の業務に役立てる。

②若手職員を対象に、「市民協働」とはどのようなことを言うのか、なぜ市民協働の視点が必要なのかを学び、日々の業務に役立つ力を身に付ける。

## ◆事業内容

①コミュニケーションに関する研修を1日2時間×3回

②市民協働に関する研修を1日3時間×1回

## ◆成果

- ・他部署の職員間の交流
- ・コミュニティの活性化
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・企画立案能力の向上

## ◆事業の様子



◆テーマ RICプロジェクト「養父市子ども向け職業体験事業」

◆研究者 講師 瓶内 栄作

◆キーワード 職業体験、Uターン

YABU

◆概要

高校卒業後の進路の大部分を市外高等教育機関への進学が占めている養父市の子どもたちに対して、将来選択のための本格的な体験活動を提供することで、養父市の魅力を再発見してもらう。小さいころに養父市での社会人生活を検討してもらうことで、将来の職業選択において養父市での就業を考えるきっかけを作る。

◆事業内容

おしごとワークショップとして、養父市内企業の紹介、職業体験と関連する講義の実施をした。

◆成果

事業実施

テーマ	協力企業	参加者	開催日
工場を知ろう！製品を知ろう！	有限会社オグラ	5人	2023/11/25
道の駅で売ろう！	道の駅ようか 但馬蔵	4人	2023/12/9
醤油を作る	大徳醤油株式会社	19人	2024/2/15

- 第1回「工場を知ろう！製品を知ろう！」では製品の製造工程について学び、スクールバッグの端材を活用したペンケースを製作した。
- 第2回「道の駅で売ろう！」では、第1回で製作したものと同仕様のペンケースについて、売り場でディスプレイを製作、改善しながら販売した。
- 第3回「醤油を作る」では、醤油の手作り工程の体験とあわせて、ラベルのデザインが持つ訴求性について学習し、手作りラベルを作成した（関宮学園にて開催）。



図1 第1回「工場を知ろう！製品を知ろう！」でのレクチャーの様子



図2 第2回「道の駅で売ろう！」での陳列の様子（左：改善前の陳列、右：講義を受けて改善後）



図3 第3回「醤油を作る」での醤油作りとラベルデザインの様子

◆テーマ **RICプロジェクト「養父市明延地区活性化事業」**

◆研究者 講師 石井 路子

◆キーワード アート+観光、地域活性化、日本遺産

## ◆概要

養父市大屋町明延地区（明延鉱山付近）の魅力向上のため、10月の「あけのべー円電車まつり」実施に向けて芸術文化観光専門職大学の教員・学生が地元住民とワークショップを重ねながら地域の現状と課題を調査し、地域にあった芸術文化×観光コンテンツを提供することで、地域の活性化及びイベント来場者の満足度向上を図る。

## ◆事業内容

養父市明延鉱山で開催される一円電車まつりにアートの視点を取り入れ、観光客の増加を図った。チョークアーティストの松本かなこ氏を招聘し、明延関連のチョークアートを描いた。また隣接地に来場者が落書きをできるフリースペースを設置し、思い思いのチョークアートを楽しむ時間を提供できた。さらにフラッシュモブおよびコミュニティダンスを行うことで自然の中で楽しみながら身体を動かす時間を提供できた。

## ◆成果

一円電車まつりで新たなアートコンテンツを展開

## ◆事業実施

・令和5年10月1日(日) あけのべー円電車まつりアートプロジェクト  
チョークアートおよび落書き体験、コミュニティダンス体験 約500名

## ◆事業の様子



◆テーマ RICプロジェクト「養父市観光インバウンドにおける課題調査事業」

◆研究者 教授 藤野 一夫

◆キーワード インバウンド 文化的アプローチ 文化観光 人口減少対策

YABU

◆概要

本調査の焦点は、養父市（と但馬地方）の人口動態の変化を理解し、文化的アプローチが人口減少を遅らせるためにどのように役立つかを考察することであった。この地域が直面している課題に焦点を当て、文化がどのように地域に留まる人々を増やし、また新規移住者にとって、この地域をより魅力的なものにするのに役立つか、という概念を発展させるための方法やアプローチについて詳しく調査した。

◆事業内容

1. 観光資源の調査
2. 市内文化施設の調査
3. 養父市観光 PR コンテンツの作成

◆成果

- ①旅日記(Reisetagebuch)
- ②調査報告書



図1 養父神社でのリサーチ



図2 養父市場 鯉養殖文化についてのリサーチ



図3 葛畑農村歌舞伎のリサーチ



図4 明延鉱山のリサーチ

◆テーマ **RICプロジェクト「朝来市観光コンテンツ開発事業」**

ASAGO

◆研究者 准教授 高橋 伸佳

◆キーワード 着地型観光、持続可能性、ユニバーサル

◆概要

ウィズコロナの時代に入り、新しい価値観や需要、感染症の脅威にも対応しやすい新たな持続可能な観光を創造する必要性が生じている。市の観光振興に資することを目的とし、朝来市における着地型観光のプログラム開発検討を実施するとともに、朝来市及び朝来市観光協会が展開する事業へのアドバイスや勉強会等の支援を行う。

◆事業内容

1. 着地型観光プログラム開発業務

着地型観光プログラムの開発に係る朝来市、先進地事例、トレンド等の調査等を実施し、朝来市に適した着地型観光プログラムの提案を行う。

2. 朝来市及び朝来市観光協会への支援業務

朝来市及び朝来市観光協会が実施する観光事業において、より効果的かつ効率的な事業推進に繋がるアドバイス及び支援業務を行う。

◆成果

1. 朝来市着地型観光プログラム：学生が 11 プログラムを開発（以下タイトルを列記）

「竹田を感じる、小学校体感ツアー」、「朝来プロジェクト 都会の大家族向け夏休みプラン」、「朝来プロジェクト 袴でアルクプラン編」、「朝来プロジェクト 銀山ボーイズ編」、「誰もが誰もと楽しめる雲海を－ヒポキャンだからできる旅－」、「まちを着て、まちを歩く。はいからさんの生野旅歩き」、「人力車で見る天空の城－ちょっと贅沢に殿になる－」、「デジタルデトックス旅」、「スクールシアター」、「これが21世紀のお城－EV トクトックで登る竹田城跡－」、「『デジタルデトックス旅』SNS 映えマップ」

2. 朝来市及び朝来市観光協会への支援：先進事例の提供、コンセプトツアー提案

国内外調査に基づく朝来市で実現可能だと考えられる先進事例の提案、策定中であった「第3次朝来市観光基本計画」を受け、着地型観光視点でのコンセプトツアーの在り方を整理・提案した。



活動の様子

上段左：仮説プログラムに関する協議、上段中：竹田小学校への取材、上段右：生野地区視察

下段左：ご当地食（ハヤシライス）の試食、下段中・右：事業報告会（プレゼンテーション）

## ◆テーマ RICプロジェクト「あさご芸術の森美術館風と光のページェント支援事業」

◆研究者 准教授 杉山 至

◆キーワード 舞台美術、制作

## ◆概要

朝来市立「あさご芸術の森美術館」は、文化功労者である淀井敏夫氏の生涯作品を収蔵しており、野外彫刻公園と屋内美術館によって構成される芸術空間である。

例年開催している美術館主催のイベントにおいて、来場者の芸術文化への興味関心、文化意識の醸成を図る取組として、イベントの支援を実施。

## ◆事業内容

## 1. 風と光のページェント（キャンドルイベント）

このキャンドルイベントのタイトルである風と光に合わせ、ブリッジの方を風の橋、タワーの方を光の塔と名づけ、ペアとなるデザインを展開。

コンセプトは、キャンドル自体を鑑賞するだけではなく、参加者が体感し、インタラクティブにオブジェが作用することを狙った。また今年度はハロウィンパレードを企画し、橋と塔とその間にある美術館の中庭のキャンドルの道を、参加者とともにパフォーマンスを行うイベントも開催。

## ◆成果

・イベントを通してのあさご芸術の森美術館の価値の向上及び芸術文化意識の醸成



図1 アーチオブジェ(風の橋)



図2 タワーオブジェ(光の塔)

## ◆テーマ RICプロジェクト「あさご芸術の森美術館アートマーケット支援事業」

◆研究者 准教授 杉山 至

◆キーワード 舞台美術、制作

## ◆概要

朝来市立「あさご芸術の森美術館」は、文化功労者である淀井敏夫氏の生涯作品を収蔵しており、野外彫刻公園と屋内美術館によって構成される芸術空間である。

例年開催している美術館主催のイベントにおいて、来場者の芸術文化への興味関心、文化意識の醸成を図る取組として、イベントの支援を実施。

## ◆事業内容

## 2. アートマーケット

学生が企画したゲーム台での体験遊具とワークショップに加え、音楽演奏の音遊びワークショップとペットボトルやカップにビーズや木の実など自然素材を織り交ぜたオリジナルパーカッション制作、プラスチックシートと端材を使って自分でペイントしてオリジナルの風車を制作するワークショップを行った。

## ◆成果

・イベントを通してのあさご芸術の森美術館の価値の向上及び芸術文化意識の醸成



図1 パーカッションワークショップ



図2 遊具体験

## ◆テーマ RICプロジェクト「KOUBA 地域ネットワーク形成支援事業」

◆研究者 助教 小島 寛大、助教 中村 嘉雄、准教授 杉山 至

◆キーワード 起業支援、移住・定住、社会関係資本、コミュニティミュージック

## ◆概要

朝来市の起業人財交流拠点「ASAGOiNG Garden KOUBA」には、令和4年度から3名（ポーセラーツ作家、ネイルサロン経営者、アクセサリー作家）の女性が入居している。地域における施設の認知度向上と地域内交流を目的に、入居者と本学によるワークショップイベント「KOUBA 冬のハンドクラフト DAY」（主催：朝来市、開催日：2023年12月3日）が開催された。イベントの企画会議で助言や提案を行ったほか、無料で参加できる3種類の音楽ワークショップを実施した。

## ◆事業内容

1. イベントの企画会議に出席し、ワークショップの開催方法やイベントの運営等について助言や提案を行った（打合せ日：2023年10月5日、10月12日）。
2. イベント当日は、コミュニティミュージックの考え方を参考に、①手づくり楽器コーナー、②音あそびコーナー（15種類の楽器を自由に体験できる部屋）、③音あそびセッション（クリスマス曲「リトル・ドラマーボーイ」を思い思いの楽器を持った来場者と共に歩きながら演奏。SAが考案した日本語詞を採用）という3種類の音楽ワークショップを実施した。京都在住の音楽家の黒坂周吾氏を招聘し、地域連携スチューデントアシスタント（SA）8名が運営に参加した。事前に学内でSAを対象に竹楽器づくりのワークショップを行い②で利用した。
3. 今回のイベントを踏まえたKOUBA活用の提言として、起業支援と交流を通じた地域の社会関係資本の向上という相乗効果を目指すこと、そのための案として入居者を中心とした地域に開かれたイベントの継続的な開催を提案した。

## ◆結果および成果

- ・来場者 50名（音楽ワークショップへの参加者。主に未就学～小学生の子どもと保護者、高齢者が中心）
- ・音楽ワークショップを実施したことで、「KOUBA 冬のハンドクラフト DAY」全体が幅広い年代の方々が気軽に立ち寄り長時間楽しむことができるイベントになり、KOUBA入居者からも来場者からも好評を得た。
- ・SA8名がイベントの準備と運営に2日間参加し、朝来市の取組と竹田地域の魅力を知る機会となった。またKOUBA入居者のスタジオを見学し交流したことで学生たちの刺激となった。



図1 手づくり楽器コーナー



図2 音あそびコーナー

## ◆テーマ RICプロジェクト「香美町産米ブランディング戦略構築事業」

◆研究者 教授 佐藤 善信、助手 辻村 謙一

◆キーワード 香美町産米、ブランディング、販路開拓、PR 促進

## ◆概要

香美町産米のブランディングについて調査・分析を行い、本町に適した事業展開等を検討する。  
検討結果を基に、香美町産米の販路開拓、PR 促進方法等について事業提案を行い、  
香美町産米の普及促進を通じた、農産業の活性化の方向性を見出す。

## ◆事業内容

## (1) 香美町産米のブランディングの調査・分析

## 香美町米生産者ヒアリング調査①

【実施日】令和 5 年 10 月 18 日（水）

【ヒアリング内容】

- ・米作りに関する取り組み内容
- ・「かにのほほえみ」という名称
- ・顧客層 など

## 香美町米生産者ヒアリング調査②

【実施日】令和 5 年 11 月 25 日（土）

【ヒアリング内容】

- ・米作りで大切にしていること
- ・生産者から見た際の、かにのほほえみを PR することについて
- ・「かにのほほえみ」がブランド化していくには
- ・販売促進する上で大事にしていること など

## まると感動市での香美町産米認知度調査アンケート

【実施日】令和 5 年 10 月 28 日（土）～29 日（日）

但馬地域の恵まれた自然環境と多様な農林水産物や、地場産品などの但馬ブランドなどの  
様々な資源を活用した「但馬まると感動市」にて、香美町産米「かにのほほえみ」や「とろか  
わの恋」に関する認知度調査を実施した。また、農法や価格帯など、米を購入する上での意  
識していることなど、併せて調査を実施した。

## 消費者ヒアリング調査

【実施日】令和 5 年 12 月 9 日（土）～10 日（日）

【ヒアリングを通して】

- ・試食から購入までのプロセスについて、検討・準備と丁寧な対応が必要
- ・高額となる商品に対し、興味を持ってもらえるような対応が必要 など

## (2) 国内の先進地視察などによる香美町との比較分析

## 福井県庁ヒアリング調査

【実施日】令和 5 年 11 月 28 日（火）

【ヒアリング内容】

- ・福井県米のブランド化の概要について
- ・農業政策に関して
- ・「いちほまれ」が求める価格帯で売ることができているか
- ・ブランドを広める手法
- ・予算関係について など

## 長尾農園ヒアリング調査

【実施日】令和 5 年 11 月 29 日（水）

【ヒアリング内容】

- ・「いちほまれ」というブランドに対する考え
- ・生産者が自身の米のおいしさを証明するには
- ・池田町産マーケット「こっぽい屋」事業について
- ・広報の手法について など

#### JA たじま本店へヒアリング調査

【実施日】令和 5 年 12 月 20 日（水）

#### 【ヒアリング内容】

- ・このとり育むお米について、ブランド化に関するこれまでの取り組み
- ・おいしいお米の必要条件と販路拡大について
- ・このとり育むお米とかにのほほえみの名前について
- ・農家の現状について など

#### （３）香美町産米の販路開拓、PR 促進方法等の事業提案

#### ◆成果

香美町の生産者及び先進地視察などを通して、香美町産米のブランド戦略の今後の課題について、指摘した。

第 1 にお米のブランド戦略は、ナショナル・ブランド戦略とリージョナル・ブランド戦略の 2 に分類することが出来る。香美町の村岡米ブランドとかにのほほえみのブランド戦略を分析した。

第 2 にナショナル・ブランドの場合には、JAS 認定米・無農薬無化学肥料栽培米という最上級米、農薬と化学肥料を 5 割削減した特別栽培米、農薬と化学肥料を 2 割減らす栽培方法のエコ栽培米の 3 種類のグレードが存在する。

第 3 に JA を通さず、顧客に直接販売することを望む農家が存在するが、ブランド米の価値を毀損する可能性がある。

第 4 にブランド・ストーリーの構築にはゴールデン・サークル理論を適用すべきである。

第 5 に村岡米やかにのほほえみの栽培農家の少なさが問題である。どのようにして就農者を増加させるのかであるが、それにはまず既存生産者の後継者を発掘・育成することが重要である。コロナ禍を契機にして、リモートワークや兼業・副業など、就業形態が非常に柔軟になってきている。米生産者の Ikigai の 4 つの項目を満たすような条件があれば、多くの人たちが農業に関心を持ち、継続的に農家としての Ikigai を向上し続けると考えられる。



左図

Ikigai（生きる理由を意味する日本人の概念）



令和 5 年 10 月 28 日(土)～29 日(日) まるごと感動市にて、学生による香美町産米認知度調査アンケート実施の様子

◆テーマ RICプロジェクト「諸寄地区における観光産業活性化事業」◆研究者 教授 中尾 清、助教 中村 敏◆キーワード 観光まちづくり、日本遺産、北前船・船主集落

## ◆概要

諸寄地区は、平成 30 年 5 月に「北前船寄港地・船主集落」として日本遺産の認定を受けたことを機に、地域全体でまちづくりに取り組む組織「諸寄活性化委員会」を立ち上げ、活動を行っている。

3 年目となる本プロジェクトでは、大学教員の派遣により、産学官+地域住民で連携を図り、廻船問屋道盛邸の活用を基軸とした北前船を活かした持続可能な観光まちづくりに向け、参考となる先進事例などを提示し、今後のロードマップについて一定の方向性を見出す。

## ◆事業内容

1. 諸寄活性化委員会の会議への参画【場所：諸寄基幹集落センター】  
 9 月 4 日（月）14：00～（中尾教授、中村助教、事務局）  
 9 月 27 日（水）14：00～（中尾教授、事務局）  
 11 月 29 日（水）14：00～（中尾教授、中村助教）
2. 諸寄地区の観光事業者へのヒアリング調査【場所：新温泉町 浜坂多目的集会施設】  
 9 月 4 日（月）16：00～（中尾教授、中村助教、事務局）  
 対象者：合同会社麒麟トラベラー 西村龍平 氏

## ◆成果

1. 諸寄まちづくり講演会の開催【場所：諸寄基幹集落センター】  
 2 月 25 日（日）13：30～16：00  
 講師：八幡崇経 氏（呼子鯨組代表）、中尾教授 司会：中村助教



【写真】諸寄まちづくり講演会の様子

## ◆テーマ RICプロジェクト「夢ホール運営等研修及び人材育成事業」

◆研究者 講師 近藤 のぞみ、助教 河村 竜也

◆キーワード 公共ホール、地域、オペレータークラブ、舞台機構、制作、音響・照明、人材育成

## ◆概要

夢ホール運営スタッフ（夢ホールオペレータークラブ）の技術向上、会員増加・若者層の会員の加入、企画運営担当の人材育成等を推進するとともに、町民への夢ホールの周知やイベント開催の楽しさを知ってもらうことで、町民から愛される施設を目指す。

## ◆事業内容

- (1) 「夢ホール」の舞台及び音響・照明を使用した講習会の実施
- (2) 文化施設運営、文化事業の企画立案に向けた人材育成講習
- (3) 各講習会で学んだ技術を用いて、大学で制作した「ゼロ弾きのゴーシュ」(抜粋版)を実施
- (4) 学生参加者と地域住民・運営スタッフとの交流促進

## ◆成果

実際の公演を想定し、仕込み、本番、撤収などの一連の流れを体験することにより、運営スタッフとしての役割や流れを学んでいただいた。

最終日の検定会で、照明や音響などを担当した参加者より、よりよい公演となるよう各人で創意工夫する姿が見受けられた。

## 実施プログラム

内容	講師	日程
開講式、舞台講習	河村竜也助教	1/9 午後
音響講習	NPO 法人コミュニティアート センターフラッツ	1/10 午後
制作講習	近藤のぞみ講師	1/18 午後
照明講習	生田正（照明家）	1/19 午後
検定会	近藤、河村、フラッツ、 生田	1/20 終日



図 1.舞台講習の様子



図 2.検定会での仕込みの様子

## ◆テーマ RICプロジェクト

## 「但馬管内の市町職員に対する研修事業（政策づくり研修 ―基礎編―）」

## ◆研究者 教授 山中 俊之

## ◆キーワード 政策づくり、市民ニーズ、コミュニケーションデザイン、ロジカルシンキング、シナリオプランニング

## ◆概要

市民ニーズをとらえ、バランスよく、かつ的確に対応するために、実践的な政策作りの考え方や手法を学ぶ。

## ◆事業内容

## 【研修内容】

20～30代で勤務年数が概ね5年以上且つ係長級までの職員を対象とした研修。

①政策立案において必要な視点②市民ニーズの捉え方③ロジカルシンキング④コミュニケーションデザイン  
⑤シナリオプランニング等について、全3日間の日帰りの研修を実施した。また、最終日には、各班プレゼンテーションを実施した。

## ◆成果

（アンケート回答より抜粋）

- ・普段目を付けない点について、意識することができた。
- ・レベルごとに分けて情報整理する考え方の重要性を学んだ。
- ・政策立案において、他視点を取り入れることの重要性を理解した。
- ・ロジカルシンキングを体験し、多面的に物事をとらえることを学んだ。
- ・発想を広げ、様々な角度から検討する大切さを学べた。

## 実施プログラム

内容	講師	日程
・政策立案において必要な視点 ・市民ニーズと経済社会環境	山中俊之教授	5/19 終日
・ロジカルシンキング ・コミュニケーションデザイン		7/7 終日
・シナリオプランニング ・プレゼンテーション		8/31 終日



研修の様子



プレゼンテーションの様子

◆テーマ **RICプロジェクト「『大阪・関西万博』に向けた但馬観光 PR 動画制作支援事業」**

◆研究者 准教授 高橋 伸佳

◆キーワード デジタルマーケティング、SNS、動画制作

TAJIMA  
KANKOU  
KYOUGIKAI

◆概要

但馬観光協議会の構成団体が各団体同士で繋がりを深めながら、芸術文化観光専門職大学の教員や学生の知識・視点を取り入れることで、但馬地域が一体となった観光 PR 動画の制作を行う。その過程で動画業者から動画制作の流れを学ぶことで、構成団体が「大阪・関西万博」に向けて、観光 PR に必要な動画制作を行うことができることを目的とする。

◆事業内容

1. 講義に係る打合せ
2. 動画制作に係る講義
3. 動画制作ワーキングでの助言
4. 第 2 回、第 3 回動画制作ワーキングでの、学生の視点をういた助言
5. 学生の視点をういた但馬管内の広域的な観光 PR 動画の納品及び学生による完成動画の発表

◆成果

1. 但馬地域が一体となった観光 PR 動画制作の手法・連携基盤の構築

昨年度事業の「大阪・関西万博に向けた新たな但馬の観光ブランドを考える」にて議論した流れを継承しながら実施した本事業は、具体的な作業を通じて大きく発展した。昨年度に課題となっていた「但馬地域全体で一丸となって観光 PR すること」について参加者間で議論する流れが構築できたためである。実際、2022 年度は一丸となって取り組む意義を見出せない参加者が存在している姿を多数確認していた。しかし、2023 年度において具体的なテーマ（動画制作）や作業を提供するという取組みが功を奏し、参加者におけるグループダイナミクス（集団内の人々の相互作用と影響）が生じたと考えられる活発な連携が確認できるなど大阪・関西万博に向けたプロモーションへの足掛かりを構築することができた。

2. 学生による但馬管内の観光 PR 動画の制作と発表

但馬地域が一体となる共通テーマを見出すことを目的として、学生独自の着眼点により観光コンテンツとしての「ラーメン※」をテーマとした動画制作に取組んだ。撮影においては、豊岡市、養父市、朝来市を横断しながら、ラーメン店の洗い出し、撮影交渉、体験取材、撮影、編集を実施した。

※訪日観光客消費動向調査レポート等の調査によれば、「ラーメン」人気は常に上位となっている。



図 1 ラーメン動画制作のための体験取材



図 2 動画制作ワーキングの発表本番

◆テーマ **RICプロジェクト「起業スタートアップ支援事業」**

◆研究者 講師 瓶内 栄作

◆キーワード 起業、経営革新、新分野進出

KENMIN  
KYOKU

◆概要

但馬地域において起業、新分野創出・新規事業を計画している方へ向けて本事業を実施し、起業・第二創業の推進および起業家同士の交流の場の創出を目指す。

◆事業内容

瓶内講師による講演 「自己実現としての創業のカタチ」

創業が、大きな収益を得るための手段だけではなく、職業選択のひとつとして位置づけられつつある状況について、政策と実務両面から講義を行った。

※兵庫県但馬県民局主催、(株)但馬銀行及び本学が共催として、「スタートアップビジネススクエア2024」を実施し、そのなかで講演を実施した。

◆成果

- ・起業支援者と女性起業家より発表
  - ・瓶内先生による評価コメント、参加者からの 質疑応答
- ※終了後、参加者同士の交流

**スタートアップ・ビジネススクエア2024**  
feat. 芸術文化観光専門職大学

参加無料

参加対象：起業家、新分野進出・新規事業を計画している地域の事業者および学生、大学教員、支援機関（行政、農工団体、地域金融機関）の職員の方

定員 30名

申込期限 3月18日(月)

**3.26 火**  
14:00 - 17:00

会場  
芸術文化観光専門職大学  
A101教室（豊岡市山王町7-52）

第1部：講演  
「自己実現としての創業のカタチ」

講師  
瓶内 栄作 氏  
芸術文化観光専門職大学  
専任講師 博士（経営学）

第2部：トークセッション

登壇者  
・税理士法人なほし会計 佐伯 直毅 氏  
・（一社）豊岡コミュニケーションズ 田中 亜衣子 氏  
・Hostel & Act もりの食堂 森 恵美 氏  
・Sweets & Books キノシタ 木下 公香 氏

お問い合わせ  
但馬県民局地域政策室  
地域づくり課 産業観光担当  
TEL：0796-26-3686  
Mail：tajimachiki@pref.hyogo.lg.jp

申込方法  
所属・氏名・連絡先を記入したメールを次のアドレス宛にご送付ください。  
【Mail: tajimachiki@pref.hyogo.lg.jp】

主催／兵庫県但馬県民局 共催／芸術文化観光専門職大学 後援／株式会社但馬銀行、日本政策金融公庫 豊岡支店

図 1.イベントチラシ

◆テーマ RICプロジェクト「明石市民会館演劇ワークショップ実施事業」

◆研究者 助教 河村 竜也

◆キーワード 高校演劇 ワークショップ

◆概要

高校演劇で県大会出場を目指す生徒を対象として、演技のコツを実践的に学ぶ場を提供する。また、ワークショップ中に俳優経験のある教員がデモンストレーションなどを行うことで、プロの技を体験する機会とする。

◆事業内容

演劇ワークショップの実施

【午前】

台本を読んで物語の流れを理解する

【午後】

チームに分かれて物語の一部分を練習する

舞台上で実際に演じて、講師から指導を受ける

◆事業実施

日時 令和5年7月21日（金）

会場 明石市立西部市民会館

参加者 26名

◆事業の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「兵庫県の高校生向け 観光・まちづくりセミナー開催事業」**

◆研究者 教授 小畑 克典、助教 高橋 加織

◆キーワード 観光、まちづくり、高校生、観光 DX、メタバース、

◆概要

神戸市を中心とした兵庫県内の高校生を対象にした観光・まちづくりセミナーである。本セミナーでは、「街全体が1軒の旅館」をコンセプトに掲げる城崎温泉における観光 DX の導入における新たな挑戦について学ぶことや、養父市でのメタバースを用いた観光促進の試みなど、但馬地域の先進事例を、体験を通し学ぶ機会になった。

ワークショップでは、「最低・最高の旅行を企画してみよう!」を行った。8つのチームに分かれ議論し、それぞれのチームがユニークな旅行計画を発表した。

◆事業内容

1. 講演：城崎温泉街における観光 DX の取り組みについて（城崎温泉観光協会 会長 高宮浩之氏）
2. メタバースを活用した観光の可能性について（養父市 x 吉本興業）  
養父市 x よしもと取り組みの紹介、バーチャルやぶの体験
3. ワークショップ「最低・最高の旅行を企画してみよう!」

◆成果

神戸を中心に23校の高校から43名の高校生がCATに集まり、但馬地域の中でも最先端の事例である城崎温泉における観光 DX および養父市のメタバースを活用した観光およびまちづくりの事例を学ぶことができた。

兵庫県内の高校生の交流の場になっており、観光に対する興味はこのような機会を通じて広がるという、可能性を感じられる1日であった。

事業実施

・2024年3月16日（土）

参加者数 神戸発着：40名、現地集合：3名、合計43名  
（学年 高校1年生：12名、高校2年生31名）



写真1 城崎温泉街における観光 DX の取り組みについて



写真2 ワークショップ

◆テーマ **RICプロジェクト「豊岡商工会議所リカレント研修実施事業」**

◆研究者 教授 佐藤 善信、准教授 藤本 悠、講師 瓶内 栄作

◆キーワード リカレント教育、マーケティング、DX、人的資源管理（HRM）

TOYOOKA  
SHOUKOU  
KAIGISYO

◆概要

豊岡商工会議所の会員を対象に、動向時流に即した学習の機会を得ること及び会員の知識の向上を目的とし、但馬地域の発展に寄与する。

◆事業内容

1. ケースで学ぶマーケティング（教授 佐藤 善信）  
第1回目 11月1日（水）  
第2回目 11月8日（水）  
第3回目 11月15日（水）
2. 管理職のための DX の進め方（准教授 藤本 悠）  
第1回目 11月6日（月）  
第2回目 11月13日（月）  
第3回目 11月20日（月）
3. はじめての HRM ワークショップ（講師 瓶内 栄作）  
第1回目 11月7日（火）  
第2回目 11月14日（火）

◆成果

（アンケート回答より抜粋）

【マーケティング】

- ・企業のマーケティングについて理論的に学ぶことができ、参考になった。
- ・実例での説明が多く、学んだことを自社にどう落とし込むか、考えていくきっかけになった。

【DX】

- ・システムの導入がすべてではなく、ルールの見直しや作業を外注するなど、広い選択肢をもつことがだいじであると共感した。
- ・DX化を目的とせず、自社にとって最適な方法を検討したい。

【人的資源管理】

- ・当社の人事評価制度の参考となることもあり、大変役に立った。
- ・現状評価制度がなく、モチベーションを高めにく思うところがあり、業務に適した多方面での評価をできる仕組みも使いたくなり、参考になった。

◆講座の様子



マーケティング研修



DX 研修



人的資源管理研修

◆テーマ RICプロジェクト「神鍋エリア観光の機能強化及びJR江原駅周辺の滞在コンテンツのブラッシュアップ事業」

◆研究者 教授 佐藤 善信、助教 中村 嘉雄、助手 辻村 謙一

◆キーワード 体験型観光、マーケティング、ブランディング

◆概要

豊岡市日高町の神鍋高原エリアでは、“泊”+“食”+“遊”の地域交流型の観光コンテンツをつなげ提供する組織「地域マネジメントプラットフォーム」が立ち上がり、本学の知見を取り入れ、各々扱っている観光情報の発信や集客拡大、地域の魅力アップへ向けたマーケティングを行って来た。今期はこれら仕組みが機能していくことで、地域の消費拡大を目指す為、特に交通結節点となる江原駅周辺とのつながりとなる新たな仕掛け等の提案を通じ、学生の意見を取り入れながら、神鍋高原エリアを軸に、日高エリア全体で稼げる地域となることを目指す。

◆事業内容

「地域マネジメントプラットフォームの機能強化（神鍋高原コンテンツの深化）」について、地域マネジメントプラットフォームの組織としての具現化を図り、参加事業者らとアクションリサーチ（理論に基づき実践しながら、理論を洗練してゆく研究方法）の応用で事業創生を促進する。また前年度に検証した神鍋滞在コンテンツの更なる深化を図る。「神鍋高原へのアクセス拡大へ向け JR 江原駅周辺の滞在コンテンツのブラッシュアップと神鍋との連携（江原駅前コンテンツの深化）」について、地域マネジメントプラットフォームを軸に、特にグリーンシーズンで提供できる新たな体験型メニューやサービス向上に向けたメニュー開発へ向け、学生中心に事業運営者等と、内容のブラッシュアップや今後の事業展開について検討を行う。

◆成果及び今後の展開

今期は地域マネジメントプラットフォームを軸に、機能強化策を行った。神鍋高原エリアでは既にトレイルランというスポーツイベントを通じて多くの人が神鍋エリアを訪れている現状を踏まえて、学生がトレイルランイベント参加者へのアンケート調査を実施し、その調査結果を基にして、学生による新たな観光に向けた仕掛け等を提案した。また、前年に検証した神鍋滞在コンテンツであるE Vモビリティの活用についても更なる深化を図るため、学生が「TUKTUK」に乗車体験し、新たな観光ルートの開発について提案した。江原駅周辺エリアでは日高まちゼミ会議に学生も参加し、同エリアで実施している体験型プログラム「とくまるゼミナール」についての次年度事業計画や江原駅周辺の活性化の方策について意見交換を行った。

学生によるトレイルランイベント参加者へのアンケート調査やイベント会場の様子



◆テーマ **RICプロジェクト「新商品開発に係る需要動向調査実施事業」**

◆研究者 **教授 佐藤 善信**

◆キーワード

小規模事業者、消費者動向、消費者ニーズ、ミステリーショッパー、

◆概要

香美町の基幹産業である「農水産加工業」「観光業」の消費者動向及びニーズを探るため、小規模事業者が取り扱う商品やサービスに係る需要の動向に関する調査及び分析提案を行う。また、小規模事業者へフィードバックを実施することで、より具体的な事業計画策定及び消費者ニーズに適応した経営の促進を図る。

◆事業内容

- (1) 調査対象施設の経営者又は経営管理者との協議
- (2) ミステリーショッパー調査に向けた調査内容の設計
- (3) 調査対象施設へのミステリーショッパー調査実施

◆評価項目

- ①気配り度合い  
予約前及び予約後、入店時、ウェーティング、オーダー時、食事中、会計時 など
- ②活気  
態度、笑顔、明るさ など
- ③料理の提供  
伺い時、提供時、他の顧客の対応 など
- ④清潔度  
ホール（食堂）、トイレ、スタッフ など
- ⑤施設  
外観、玄関・廊下・部屋の雰囲気、空調、Wi-Fi 環境 など
- ⑥料理  
夕食（メインディッシュ、サブディッシュ）、朝食 など

◆成果

教授 佐藤善信主導の下、香美町地区の宿泊施設（合計 5 施設）を対象に、外部調査員によるミステリーショッパー調査を実施。調査対象施設 5 施設のうち 4 施設については、各 3 回の調査を行い、残り 1 施設については、4 回の調査を行い、計 16 回の調査を実施した。  
また、ミステリーショッパー調査結果及び香美町商工会が同調査対象施設へ行ったアンケート調査結果を基に分析提案書を作成し、香美町の小規模事業者へのフィードバックを実施した。

◆テーマ RICプロジェクト「道の駅 " 東浦ターミナルパーク " 活性化事業に係る調査等事業」

AWAJI  
SYOUKOKUAI

◆研究者 講師 瓶内 栄作、准教授 杉山 至、講師 千賀 喜史

◆キーワード 道の駅、地域活性化、まちづくり

◆概要

淡路島は交通至便な観光地として近年注目が高まっており、来訪者も増えている。淡路市東浦 IC そばに所在する東浦ターミナルパークも順調に来訪者が増えている。将来にわたり東浦ターミナルパークを維持発展させるためには、業況好調な機会を活かし、再開発を検討することが有効である。本事業においては、都市部と地域をつなぐバスターミナルに比べ、道の駅および商業施設が所在し、文化施設やビーチを隣接とするなど複雑な機能を有している施設群に対して、各施設が持つ魅力・資源を統一的なコンセプトとランドデザインにより整理することで、持続的な成長発展と地域活性化を目指す。

◆事業内容

1. 教員 3 名および学生 4 名によるフィールドリサーチツアーの実施
2. 専門性を有する教員によるワーキンググループでの助言

◆成果

芸術文化ならびに経営系教員のもつ、それぞれの視点から分析助言が行われた。

①フィールドリサーチツアー（2023/10/16）

淡路市への事業提言に向けた基礎データの作成として、各施設に対する強み弱みの評価と、全体的な課題の抽出を行った。東浦 TP 活性化協議会（地域住民の団体）による自己分析では、施設は個性に乏しく見るものがないという認識であったが、フィールドスタディメンバーの印象では、物産館をはじめ充実をしているという印象が得られた。ただし案内板等掲示物の不備については強い印象を持った。

②ワーキンググループメンバーへの助言の実施（2023/10/16,11/29）

浦川沿いなどに設置されているアート作品 について、高い評価をした。一方展示の仕方については疑問があり、一定のコンセプトに基づいた展示が良いのではないかと意見を述べた。また、複合的な施設で統一したコンセプトを出した事例として東京の商店街の事例を述べ、ディレクション団体の必要性や、サインコミュニケーションの必要性などについて助言した。



図 1 フィールドリサーチツアーならびにワーキンググループメンバーへの助言の様子

◆テーマ RICプロジェクト「但馬ドーム開館 25 周年記念事業イベント」(全但バス(株))「但馬空港チャーター便お出迎え事業」(但馬空港ターミナル(株))

## ◆研究者 講師 石井 路子

## ◆キーワード アート+観光、ヘルスケア、但馬空港利用促進

## ◆概要

コロナ禍で冷え込んだ観光産業をアートの視点を盛り込むことで、新たな「おもてなし」の形を創造するとともに、観光客が簡易なダンスと一緒に踊ることで身体・精神ともに健康を実感する場を創出する。

## ◆事業内容

- 1.但馬ドーム 25 周年記念事業イベントにおけるフラッシュモブ及びコミュニティダンスを展開した。
- 2.兵庫県土木部空港政策課による但馬空港利用促進事業において、松山空港からのチャーター便のお出迎えを行った。今年度は 12 月開催であったためターミナルビル内でフラッシュモブダンスを披露。さらに、コミュニティダンスによってその後のツアー中に円滑なコミュニケーションが集团内に生まれるよう、観光客同士の交流を図った。

## ◆成果

- ①但馬ドームの 25 周年記念事業として祝舞の提供。
- ②但馬空港利用促進事業におけるおもてなし事業の新たな形を提案

## ◆事業実施

- ・令和 5 年 10 月 16 日(日)但馬ドーム 25 周年記念事業  
コミュニティダンス体験約 200 名
- ・令和 5 年 12 月 9 日(土) 但馬空港利用促進事業  
チャーター便乗客 約 40 名  
但馬空港利用者 約 40 名



但馬ドーム 25 周年記念事業イベント



但馬空港チャーター便お出迎え事業

◆テーマ RICプロジェクト「コミュニケーションWS 及び豊岡演劇祭取組研修事業」

◆研究者 講師 石井 路子、助教 河村 竜也

◆キーワード 小中高大連携、コミュニケーション

◆概要

神戸学院大学附属高等学校（中高一貫コース）1年生 60 名を対象としたコミュニケーション WS 及び豊岡演劇祭取組研修を実施した。

◆事業内容

令和 5 年 8 月 25 日

（A 班 30 名、B 班 30 名 ①と②入れ替えて実施）

9:00～10:15（75 分）

①コミュニケーションWS（石井講師・劇場）A 班

②豊岡演劇祭の取組紹介（河村助教・A101 教室）B 班

10:30～12:00（75 分）

①コミュニケーションWS（石井講師・劇場）B 班

②豊岡演劇祭の取組紹介（河村助教・A101 教室）A 班

図 1 コミュニケーション WS の様子



図 2 豊岡演劇祭取組研修の様子



## ◆テーマ RICプロジェクト「但馬地域における事業承継に関する共同事業」

◆研究者 講師 瓶内 栄作、助教 中村 嘉雄

◆キーワード 事業承継、金融、地域経済、地域活性化

## ◆概要

本事業は、豊岡市に本店を置く地方銀行である但馬銀行との共同事業である。経営者の平均年齢は年々上昇している。また、新型コロナウイルスの影響による景気後退もあり、今後中小企業の休廃業・解散は増加する恐れがある。このように「大廃業時代」を迎えるなか、経営者の代謝を促す事業承継は、廃業数を抑え、多様性ある中小企業を維持するために重要な取り組みである。反面、事業承継の担い手不足についても問題視されている。特に人口減少の著しい但馬地域については、喫緊の課題であるといえる。本事業では、但馬地域の中小企業・小規模事業者を対象に、事業承継(M&A 含む)に関する実態や課題を調査・分析する。

## ◆事業内容

3. 但馬銀行が実施するアンケート調査項目設計についての助言
4. アンケート結果分析についての助言
5. 事例企業へのヒアリング実施
6. 上記1～3にかかる報告資料の作成

## ◆成果

1. アンケート調査の実施（実施主体は但馬銀行）
  - ①実施時期：令和5年2月～3月
  - ②調査対象：但馬地域の企業761社、337社回答(回答率44.2%)。  
創業者103社、創業者以外234社が回答した。
  - ③調査方法：郵送調査及び対面調査を行った。
  - ④財務基準：2012年6月期～2022年12月期までの各社決算情報を使用した。
  - ⑤その他：創業者用、創業者以外用の2種類のアンケート形式を採用した。
2. ヒアリングの実施  
但馬銀行と本学から、但馬内の2社へヒアリングを行った。経営環境、現経営者が受けた事業承継について、現経営者から後代への事業承継について、外部関係者（金融機関ほか相談者）との関係などについて半構造化インタビューを行った。
3. 報告書について（内容は別途公表）  
本調査においては但馬銀行本店と芸術文化観光専門職大学による調査設計のもと、各支店渉外担当者の丹念な調査により貴重なデータを収集することができた。通常の経営者アンケートにとどまらず、但馬銀行の有する財務情報を調査用に統計加工した分析データを使用している。事業承継アンケートと財務データを高精度に紐付けた分析は過去の研究になく、極めて先進的で貴重な研究であるといえる。

## ◆テーマ RICプロジェクト「(株)トキワにおける新たな CSR 活動の検討支援事業」

TOKIWA

◆研究者 助教 中村 嘉雄

◆キーワード SDG's、CSR、老舗企業、地域貢献、雇用創出、三方良し

### ◆目的

香美町香住区にある「(株)トキワ」は、食品製造業の会社であり、創業約 110 年の老舗企業である。主力商品は、調味料の「べんりで酢」、「梨のワイン・梨花一輪」、「城崎ビネガー」などがある。

この会社の社会貢献の一環として、長年企業経営を通じてお世話になった長井地区の活性化を図るため、大学の知見による新たな発想・提案を見出すことを目的とする。

### ◆事業内容

#### 1 従業員ヒアリング調査

今回の委託内容である社会貢献活動について、既に(株)トキワでは「花いっぱいにする活動」、「コウノトリの巣」などの取り組みを行っている。経営者である会長・社長の思いや考えを中心に行っている活動について、従業員はどのように感じているのかを知ることが、とても重要なことである。

企業の社会貢献活動は、重要であることを認識しつつも企業の存在意義である『利潤の極大化』には直接つながらない場合が多い。むしろ、儲けにつながらないのに仕事だけが aumentando というようなマイナスイメージの可能性もある。

企業経営に重要である地域からの信用創造である社会貢献活動は、経営者としては重要視するものの企業本来の業務ではない場合が多い。このようなすれ違いから本来業務でないことを行っている従業員にとって、商品開発や営業活動などの本来業を行っている従業員からどのように思われているのかも重要な要素である。

そこで、現在行っている社会貢献活動に加え、これから提案しようとしている社会貢献活動について、従業員からヒアリングすることが必要であると考えた。従業員の思いや考えが 1 つになってこそ、社会貢献活動の意義があるのではないかとこの観点でヒアリング調査を実施することとした。

#### 2. 地域の関係者へのヒアリング調査

現在行っている社会貢献活動を地域の関係者は、どのように感じているのかを知ることが、新たな社会貢献活動を実施する上での重要なポイントになると思われる。企業側が考える社会貢献活動が必ずしも地域に関係者が期待しているものと同じであるとは限らない。

せっかく社会貢献活動をして地域とのつながりや関係が深まったものでは意味がない。また、企業がやるべきことと行政がやるべきことのすみ分けも必要である。特に少子・高齢化による人口減少で過疎化が進む中、喫緊の課題と中長期的な課題をすみ分けて整理する必要がある。そこで、地域のできるだけ幅広い方々から意見を聞くことにより、社会貢献活動のあり方を探ることを目的にヒアリング調査を実施することとした。

#### 3. 最終報告会

従業員や地域の関係者を招き、3月11日(月)に報告会を実施し、事業の報告とSAで関わった学生の提案について発表した。

### ◆提案内容(成果)

新たな地域貢献策を提案するに当たり、(株)トキワと芸術文化観光専門職大学との連携に基づき、学生を中心にコンテンツを開発し、内容の更なるブラッシュアップをはかる。

ヒアリング調査の結果を踏まえ、学生の若い発想による(株)トキワの地域貢献に資する提案を以下に示す。

長井地区の方々にヒアリングを通して多く聞こえてきたのはやはり今後の高齢化に関するお話だ。高齢化に伴い田畑の維持管理や空き家問題など様々な問題が表面化してきている一方で、香住のご高齢の方たちは「とても元気だ」という声も多かったのも印象的だった。

また、社員さんへのヒアリングを通し、株式会社トキワという企業がCSR活動に取り組むためには、社員や企業自体にもメリットがないと持続できないのではないかと感じ、地域にもトキワにも両方にメリットがある提案が求められると感じた。

地域を元気にするためには、前提としてそこに住む住民が楽しく健康に暮らせる環境が必要である。また、ご高齢の方が生き生きしている地域ほど、その地域に活気をもたらす。幸いなことに長井地区には株式会社

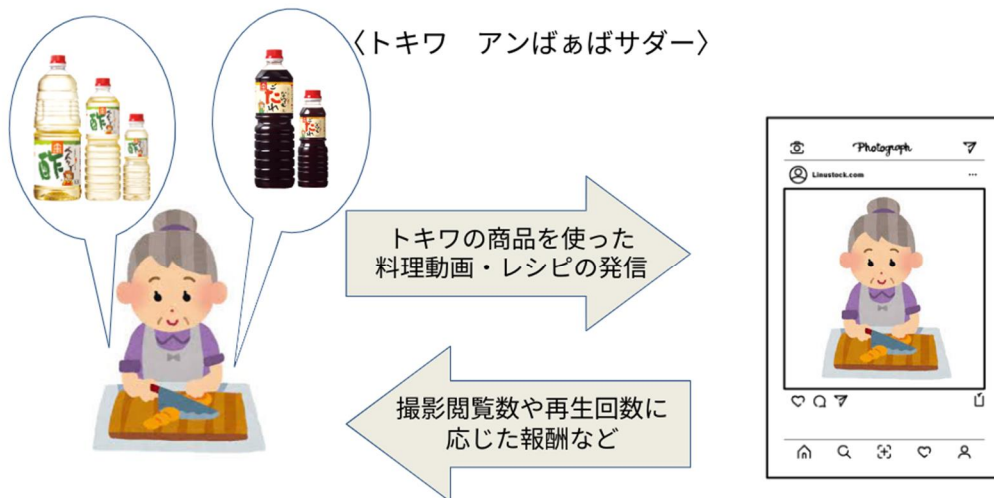
トキワという“食”から地域を健康にする企業があり、今後元気な高齢者が増えていくことが予想される。高齢化は決して悪いことではない。トキワという企業を通じて、未来に対して悲観するのではなく、高齢化する地域をプラスに捉え今に対して新たな楽しみを追求する地域を目指してみようことを提案する。

〈具体案〉トキワ アンばあばサダー

長井地区に住むおばあちゃんにトキワのアンバサダーになってもらい、HP や公式 Instagram（フォロワー 1.5 万人）等を通じてトキワの商品を PR してもらう。トキワの社員がアンばあばサダーの自宅や社内のキッチンで料理動画の撮影や編集を行い、地元の方との交流を図る（見守りの意味もある）。

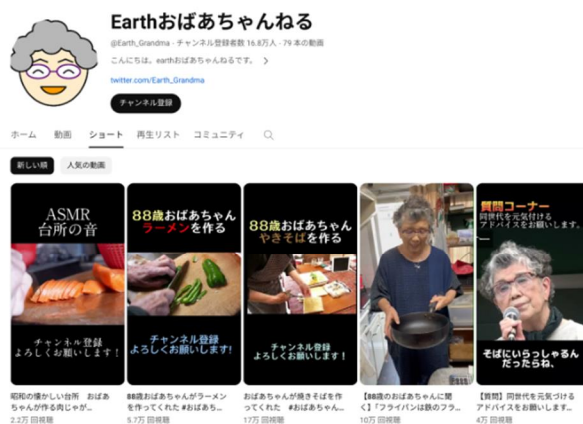
半年（または 1 年）を通じ、撮影閲覧数や再生回数に応じて報酬を出し、活動に対してのモチベーションを高めてもらう。日常的に行っている料理を副業にできるという、アンばあばサダーにとっても負担があまりない取り組みとなる。

## 地域貢献への新たな提案（学生提案）



定期的にSNSで紹介した料理をお弁当などで社員さんや住民の方々に販売する

### 〈参考事例〉



SNSでもおじいちゃん、おばあちゃんが活躍する時代。特に手料理動画には多く再生数が付いてきている印象。



◆テーマ **RICプロジェクト「平田オリザ 研修協力事業」**

◆研究者 学長 平田 オリザ

◆キーワード 取組発信、地域貢献、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育

No. 1 **「JICA 発展途上国向け訪日研修における協力事業」**

**PREX（公益財団法人 太平洋人材交流センター）**

JICA  
PREX

◆概要 PREX が JICA(独立行政法人国際協力機構)関西より委託を受けて実施する発展途上国の観光関係行政官等向け訪日研修において、研修プログラムの一部を本学が協力して実施する。

◆内容 「芸術文化観光専門職大学の概要（人材育成）と地域連携」

日 時 令和5年9月7日（金）

会 場 本学

対 象 JICA 観光関係行政官（12カ国）



No. 2 **「日本航空セールス人材向けワークショップ開催事業」**

**日本航空（株）**

JAL

◆概要 日本航空のソリューション営業推進にあたり、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育を活用し、セールスパークソンの対話力・コミュニケーション能力・コンテクストの読取力などの強化を図る。

◆内容 「芸術文化観光専門職大学の概要（人材育成）と地域連携」

日 時 令和5年10月13日（木）

会 場 日本航空（株）本社（東京 天王洲アイル）

対 象 日本航空社員 約60名

No. 3 **「（株）トキワ 社員研修実施事業」**

**（株）トキワ**

TOKIWA

◆概要 （株）トキワが実施する社内研修において、演劇的手法を用いたコミュニケーションを中心にプログラムを実施し、同社が課題とする組織力の向上、情報共有やコミュニケーション促進に貢献する。

◆内容 「演劇的手法を用いたコミュニケーションワークショップ」 学長 平田 オリザ

「芸術文化観光専門職大学について」 副学長兼 RIC 長 川目 俊哉

日 時 令和5年10月28日（土）

会 場 本学

対 象 トキワ社員 約95名



◆テーマ エクステンションセンター リカレント講座「但馬ストーク・アカデミー」◆研究者 エクステンションセンター

## ◆キーワード リカレント教育（学び直し）

## ◆概要

エクステンションセンタービジョンとして、地域の潜在的ニーズに対し、気づきと行動のきっかけを創出し、但馬の成長へつなげることとしている。本講座は、但馬地域の企業人材を対象にリカレント教育受講の場を提供することにより、最新のマネジメント動向の習得や、異業種のネットワークの構築により、但馬の成長の基盤となる産業界の活性化に寄与することを目的に次の通り取り組む。

## ◆事業内容

経営管理と組織（ゲスト講師/大阪経済大学教授 福嶋幸太郎）  
 製品開発と生産管理（ゲスト講師/中小企業診断士 楠田貴康）  
 財務管理とビジネス会計（ゲスト講師/公認会計士 浅野禎彦）  
 ビジネスプラン作成（助教 中村嘉雄）  
 I T・D X（准教授 藤本悠）  
 マーケティング（教授 佐藤善信）  
 経営戦略（講師 千賀喜史）  
 人的資源管理（講師 瓶内栄作）  
 職場で活かせるコミュニケーション能力（講師 平田知之）

## ◆成果

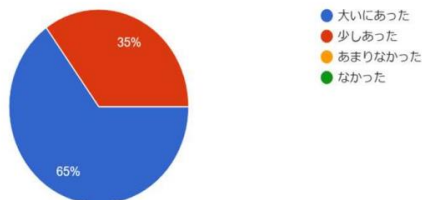
開講講座数：9 講座

受講者数：計 1 1 7 名（複数講座を受講された方を含む）

## ◆受講後のアンケート結果

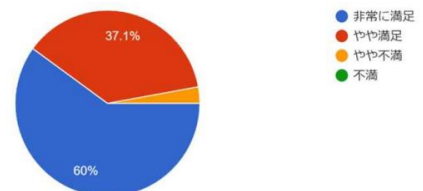
○新たな気づきを得られたか

大いにあった 65%    少しあった 35%



○講座の満足度

非常に満足 60%    やや満足 37.1%



◆テーマ エクステンションセンター 生涯学習講座「CAT 市民公開講座」◆研究者 エクステンションセンター

◆キーワード 生涯学習、市民公開講座

## ◆事業内容

## ①第2回教養講座

日時： 2023（令和5）年8月20日（日）10：30～12：00

場所： 芸術文化観光専門職大学

講師： 横山 剛氏（SRCグループ 会長 Kiss FM KOBE 代表取締役社長）

テーマ： マーケティングの視点から見たまちづくりについて

## ②第3回教養講座

日時： 2023（令和5）年10月19日（木）、10月26日（木）、11月2日（木）

11月9日（木）、11月16日（木） 各19:00～20:30

場所： 芸術文化観光専門職大学

講師： 李 知映（芸術文化観光専門職大学 講師）

テーマ： 韓国語と芸術文化を学ぼう

## ◆成果

① 受講者数：22名

② 受講者数：6名

## ◆講座の様子

①



②



◆テーマ シリーズ「パフォーミング・ライブラリー」

◆研究者 学術情報センター

◆キーワード 図書館、パフォーミング・アーツ、ワークショップ

◆概要 学術情報館は、いつもは静かに読書し勉学に励む場であるとともに、時にパフォームする＝演じる図書館でありたいと考える。館に蓄積されている知や情報、階段状に吹き抜けた建築的構造などを活用し、学生、教職員、市民が思い思いのパフォーミング・アーツを繰り広げる。さらには、「図書館」、「本」、「言葉」自体が既存の形にとらわれずパフォーム＝演じることができるよう、利用者との新たな出会い方を演出するワークショップなどを企画する。

◆事業内容

1. 第6回：市原佐都子の劇作術に迫る～『Madama Butterfly』から『弱法師』へ～
2. 第7回：シンポジウム《但馬を記録する、但馬を創造する》——「創造的アーカイヴ」の可能性～いかに地域の文化資源を作品制作に利活用するか～
3. 第8回：公募企画 BOOK DIALOGUE（ブック・ダイアログ）～あなたの声で繋げる、ポエトリー・リーディング～

◆成果

- ①第6回：世界的に活躍する劇作家・演出家市原佐都子の劇作術の核心を学生・教職員・市民に開陳。
- ②第7回：学術情報センターが標榜する「創造的アーカイヴ」の今後の展開を、この分野の専門家とのディスカッションを通じて、深く考察。今後のコラボレーションの可能性を探る。
- ③第8回：本シリーズでの初めての一般公募企画。学術情報館の市民への開放を企画面でも実現。

参加者数

第6回：66名

第7回：49名

第8回：36名



図1 第6回：『Madama Butterfly』から『弱法師』へ



図2 第7回：「創造的アーカイヴ」の可能性

◆事業名 **CAT 舞台芸術実習公演**

INTERN  
SUPPORT  
CENTER

《Performing Arts Project (PAP)》

《TAJIMA YOUTH THEATER (TYT)》

◆担当教員 石井 路子、山内 健司、児玉 北斗、木田 真理子、尾西 教彰、杉山 至、  
深澤 南土実、近藤 のぞみ、岡元 ひかる、河村 竜也、田上 豊

◆キーワード 演劇 公演

◆概要

「CAT 舞台芸術実習公演」とは、兵庫県豊岡市にある芸術文化観光専門職大学(CAT)が授業の一環として取り組む舞台芸術作品の公演事業。第一線で活躍する国内外のアーティストが携わり、学生と共に演劇やダンスなどの舞台作品を創作している。令和5年度は、PAPvol.4 の上演を実施。また、新たに但馬のユース世代に向けた上演プロジェクト TYT を立ち上げ、豊岡市と養父市で上演した。

◆事業内容

1. Performing Arts Project vol.4

オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト

『饒舌なダイジと白くてコトエ、マツオはリバーでネオには記憶』

演出：三浦直之(劇団□□)

出演・スタッフ：芸術文化観光専門職大学学生

会場：芸術文化観光専門職大学静思堂シアター

期間：2023.12.16[土]－23[土]

全6回／入場者数：約400名



PAP vol.4 舞台写真©トモカネアヤカ

2. TAJIMA YOUTH THEATER vol.1

『Q学』

作・演出：田上 豊

出演・スタッフ：芸術文化観光専門職大学学生



『Q学』 舞台写真

【豊岡公演】

会場：豊岡市民プラザ ホットステージ

公演期間：2023.11.23[木]－24[金]

全2回／入場者数：約200名

【養父公演】

会場：おおやホール

公演期間：2023.12.2[土]－3[日]

全2回／入場者数：約100名



公演チラシ

## ■その他の連携事業

相手方	事業名	事業内容
甲子園大学、阪急阪神HD、阪急阪神百貨店、ホテル若水、宝塚市	1万人の宝塚 Hands-温（ハンズオン）（宝塚大会議）	宝塚市と連携協定を結んでいる団体が、協力して繋がりを深めるために、宝塚市をテーマとして、宝塚市の歴史ある資源「宝塚温泉」の魅力を発信。
兵庫県靴工業組合、(株)由利	地域との連携による大学ノベルティ「リデュースバッグ」製作	SDGs（持続可能な開発目標）の実現に貢献する観点から、かばんの製造過程で出る端材を活用し、大学PR用ノベルティとして「リデュースバッグ」を製作。



1万人の宝塚 Hands-温（ハンズオン）



兵庫県靴工業組合、(株)由利との大学ノベルティ共同製作

## ■行政・団体・企業等との連携協定

### 2022 年度締結

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
JA たじま	芸術文化観光専門職大学とたじま農業協同組合における産学連携協力の推進に係る協定	但馬地域内における観光と農（食）の更なる連携を促進し、産学連携による地域活性化を図る。	2022.10.21
宝塚市	宝塚市と芸術文化観光専門職大学との包括連携協定	芸術文化及び観光を生かした地域活性化に資する取組や人材育成により、宝塚市域の持続的な成長及び市民サービスの向上を図る。	2023.3.24

### 2021 年度締結

企業名	協定名	協定内容	協定締結日
豊岡市 (株)EXx	豊岡市における電動キックボード実証実験に関する連携協定	(株)EXx の電動キックボードサービスによる二次交通の利便性向上に向けた実証実験を実施。	2021.6.3
KDDI(株)	芸術文化観光専門職大学とKDDI 株式会社との包括的連携に関する協定	5G 基地局を本学に開局。教育環境の充実や芸術観光分野における共同研究を促進。	2021.7.21
全但バス(株)	芸術文化観光専門職大学と全但バスにおける連携協力の推進に係る協定	新たな観光資源の開発や路線バスの活用、地域人材の育成など、地域課題の解決や地域創生を図る。	2021.10.15
(株)但馬銀行	芸術文化観光専門職大学と但馬銀行における産学連携協力の推進に係る協定	地域産業の活性化を図るため、地域課題の解決や地域の新規事業創出・起業支援などを推進。	2021.11.15

但馬信用金庫	芸術文化観光専門職大学と但馬信用金庫銀行における産学連携協力の推進に係る協定	地域産業の活性化を図るため、地域社会や地域経済の維持・発展、相互の資源を活かした交流を推進。	2021.11.15
兵庫県商工会連合会	芸術文化観光専門職大学と兵庫県商工会連合会における事業連携に関する協定	相互の教育研究活動の推進による人材育成、県下商工会における経営改善普及事業・地域振興事業の推進、地域中小企業の発展と地域経済活性化を促進。	2021.12.3
豊岡商工会議所	芸術文化観光専門職大学と豊岡商工会議所の連携協力協定	地域産業の振興、中心市街地活性化、人材育成、学術研究・広報などの分野での相互の人的・知的資源の交流や活用を促進。	2021.12.16



2022 年度 たじま農業協同組合との連携協力協定

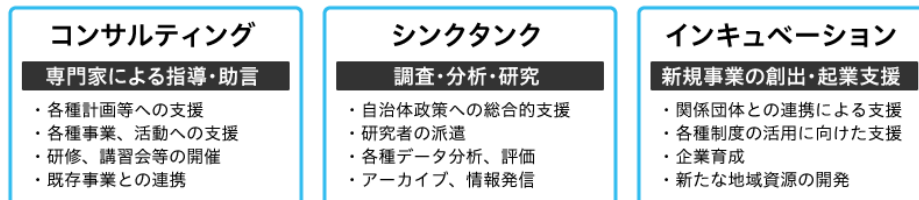


2022 年度 宝塚市との連携協力協定

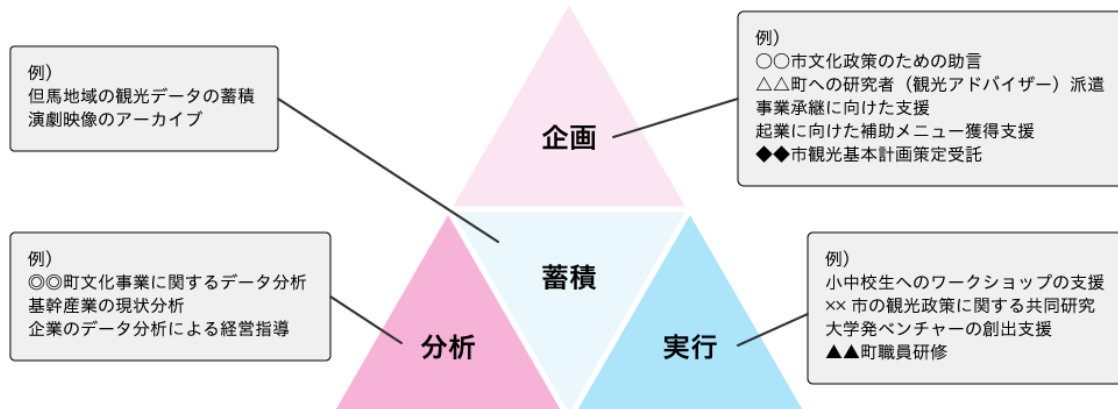
## 地域リサーチ&イノベーションセンターについて

2021 年に開学した芸術文化観光専門職大学では、地域連携の推進拠点として「地域リサーチ&イノベーションセンター」（略称：RIC「リック」）を設立しました。RIC は、地域と大学をつなぐ窓口となり、地域課題の解決を通じて地域と大学を進化させることを目的としています。

### 【地域リサーチ&イノベーションセンターの3つの機能】



### 【各フェーズにおけるプロジェクト】



#### ◆ お問い合わせ・産学官連携申し込み

芸術文化観光専門職大学

・地域リサーチ&イノベーションセンター（RIC） ・地域協働課

〒668-0044 兵庫県豊岡市山王町 7-52  
 電話 0796-34-8123（代表）、34-8162（RIC ダイヤルイン）  
 URL <https://www.at-hyogo.jp/>  
 Mail [cat-hyogo@ofc.u-hyogo.ac.jp](mailto:cat-hyogo@ofc.u-hyogo.ac.jp)



観光関係行政等を対象とした研修プログラム



芸術文化観光専門職大学  
Professional College of Arts and Tourism